

田舎暮らしを希望する 都市部の若者が急増中！

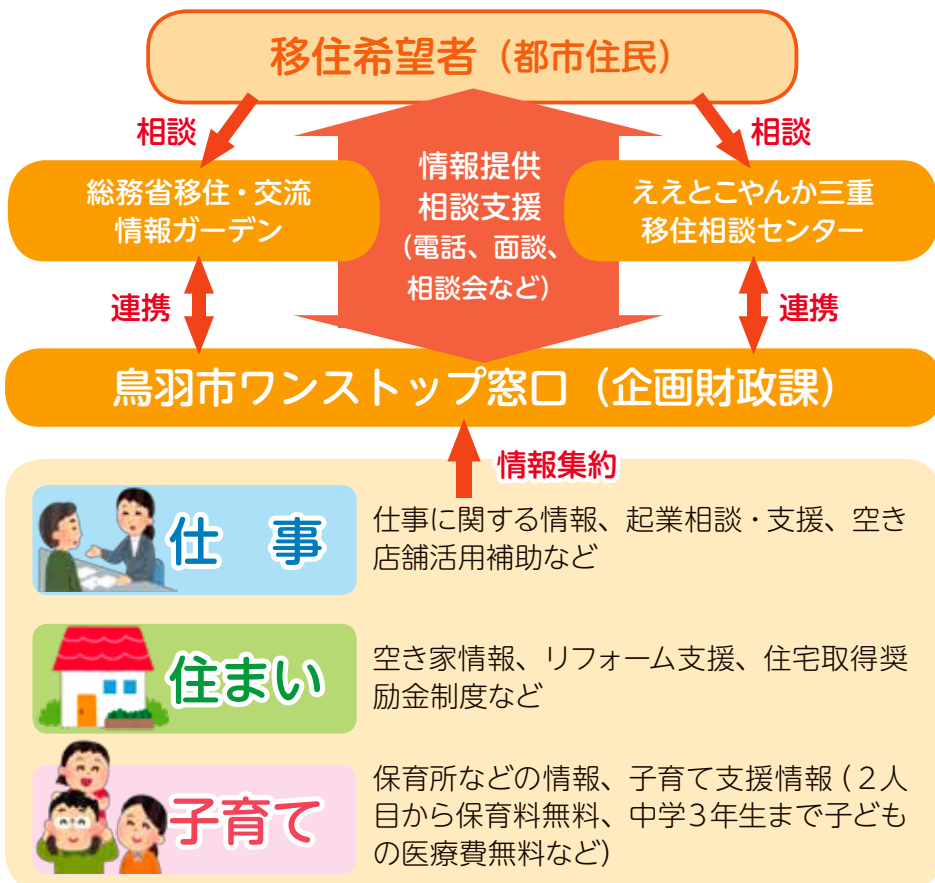
全国的な少子高齢化・人口減少が進み、過度な首都圏への人口集中が大きな社会問題になっていますが、近年、田舎暮らしを希望する若者世代が特に急増していると言われています。それは、鳥羽市で更なる移住・定住を推進していくチャンスであるとも言えます。

企画財政課企画経営室 ☎ 25 1227

～移住・定住のワンストップ窓口を開設～

地方から大都市への人口流出に歯止めをかけ、地方への新しい人の流れを創出することを目的に、昨年3月に総務省の「移住・交流情報ガーデン」が東京駅前に開設されました。また4月には千代田区有楽町にあるNPO法人ふるさと回帰支援センター内に「ええとこやんか三重 移住相談センター（三重県による移住相談窓口）」が開設されました。ふるさと回帰支援センターでの相談件数は年々増加傾向にあり、最近の多い月では2,500件を超えています。

鳥羽市でも都市部の移住希望者の受け入れを強化していくことを目的に、1月から企画財政課内にワンストップ窓口を設置することになりました。ワンストップ窓口の開設により、鳥羽市の「仕事」、「住まい」、「子育て」に関する情報を一元化するとともに、一つの窓口において総務省、三重県の窓口とも連携しながら必要な情報提供、相談支援ができるようになります。また、移住希望者のニーズを総合的に把握することができ、今後の施策へそれを反映させることが可能になります。



「移住・交流情報ガーデン」
47 都道府県の移住パンフレット設置



「ええとこやんか三重 移住相談センター」
移住相談アドバイザー

移住者の受け入れをきっかけに鳥羽が元気に！

～鳥羽市で活躍中の地域おこし協力隊の紹介～

地域おこし協力隊とは

地域における農林漁業の応援、住民の生活支援などの「地域協力活動」に従事してもらうことを目的に、地方自治体が都市住民を“地域おこし協力隊”として委嘱し、地域への定住・定着を図りながら、地域の充実や強化を目指す総務省の取り組みです。平成26年度までに全国で1,511人が隊員に任命されています。

活動期間

概ね1年から最大3年以下の期間、地域おこし協力隊員として地方自治体の委嘱を受け、地域で生活しながら、各種の地域協力活動を行っていただきます。



佐藤慎也さん (24)

鳥羽に来て地元のかたがたとかかわる中で、「浦村かき」の美味しさを最大限に生かす調理方法、鯛よりうまい幻の白身魚、牡蠣を美味しく育てる意外な知恵など都会には知ること気づくこともできなかった暮らしや漁業の知恵・技術・魅力に日々感動しています。現在はそんな知られざる鳥羽の魅力を広めるべく、浦村町で開催される今浦朝市をお手伝いさせていただいたり、物産イベントを企画するなど市内外を飛び回ってます。

業務内容 地域水産物の調査および掘り起し、地域の課題支援・水産業への従事、水産物の高付加価値化および6次産業化の推進

主な活動場所 浦村町

プロフィール 愛知県名古屋市出身。大学卒業後、水産関係の仕事に従事し、浦村町でのカキ養殖業に興味を持つ。

大野愛子さん (36)

石鏡町に移住して4か月が経ちましたが、もっと長い間居るような気がします。ここでは、道で声をかけてくれたり、野菜や魚をくれたりと、都会にはない人の温かさを感じます。空気の美味しさ、海、満天の星空なども最高で、自然と共存する喜びと癒しも与えてもらっています。魚介類では、タコの柔らかさと味は抜群で、海女という仕事柄、自分たちで獲れるのでラッキーですね。

東京ではお金を出せば美味しいものが食べられますが、贅沢＝高額ではなく、自然と共に季節を感じながら、新鮮な魚介類をいただくシンプルな生活が、私にとって、とても贅沢なものだと感じています。

業務内容 海女見習い、地域活動の支援

主な活動場所 石鏡町

プロフィール 東京都北区出身。大学卒業後、有名写真家のもとで写真家として仕事を始める。



大野愛子さん 上田桃子さん

上田桃子さん (29)

鳥羽に移住したきっかけは、長年夢見た海女になるためでした。私は、いつか海女になるために、いろいろな地域の海で素潜りの練習をしてきたのですが、鳥羽の海はどこの海とも違い、海に入った瞬間「なんておいしそうなお海なんだろう！」と感激しました。

もともと東京に住んでいたため、大好きな海の近くで生活し天気がよければ海女として海に潜り、新鮮な海の幸や町のかたが作ってくれた無農薬の野菜を食べて、満点の星空を眺めることができるという今の生活は、毎日が充実しており本当に楽しいです。

業務内容 海女見習い、地域活動の支援 **主な活動場所** 石鏡町

プロフィール 東京都東村山市出身。看護学校卒業後、看護師として就職。